

野鳥・水生動植物観察スポット

こなん水辺公園・河北潟野鳥観察舎

●河北潟

河北潟は、金沢市、津幡町、内灘町、かほく市にまたがる県内一大きな潟で、古くは蓮湖、大清水とも呼ばれ、釣りや船遊びの場として人々に親しまれてきました。

藩政期に、豪商・銭屋五兵衛が干拓に着手しましたが成功せず、干拓事業は、昭和になり再び着手し、20年もの歳月を要し完工しました。



●こなん水辺公園

河北潟やその周辺には、今なお豊かな自然が残されています。こなん水辺公園は、市内では初めての「自然との共生」をテーマに、水辺の野鳥や水生動植物の生息にふさわしい自然環境を保全するため、平成14年(2002)に開園しました。動植物の観察池、せせらぎやほじょう圃場など河北潟周辺の水辺景観を再現し、自然に親しみ、観察や体験を通じて楽しく環境学習ができる空間となっています。



アオサギ



ミズアオイ

園内では、ミズアオイやヒシ、マコモ、ヒメガマなどの湖沼や湿地にみられる植物が観察でき、池には、メダカ、ヌマエビ、アメリカザリガニなどの姿がみられます。水辺には、アオサギやマガモ、チュウヒなどの姿がみられ、オオヨシキリがヨシの葉陰から特徴ある声でさえざります。

●河北潟の野鳥たち

河北潟には数多くの野鳥が飛来します。その多くは、カモ類やサギ類です。干拓地では、餌が豊富でねぐらも多くトビやムクドリ、コチドリなどが生息し、潟周辺の休耕田には、ハマシギやモズ、コハクチョウなどがみられます。



ヒシ

●野鳥観察舎

河北潟で確認された野鳥は約230種で、このうち130種あまりが水鳥です。湖岸にある河北潟野鳥観察舎でも一年を通じて、何種類もの野鳥と出会えます。春には潟で越冬したカモ類が旅立ち、ツバメがやって来ます。若い緑のヨシ原では、カルガモが営巣をはじめます。夏はオオヨシキリが飛び交い、秋には夏鳥が飛び去った後カモメやアジサシが姿をみせ、冬になると数多くのカモ類やウミネコ、ユリカモメ、コハクチョウなどが飛来し、湖面を舞台に華麗さを競い合っています。